

最近よく耳にする「タイパ」という言葉を、みなさんは知っていますか。「タイパ」はタイムパフォーマンス（時間対効果）を表す略語です。「コスパ」がお金の有効活用について考えるコストパフォーマンス（費用対効果）を表すのに対し、時間の有効活用について考えることを意味しています。Z世代などの若者から生まれたと言われる言葉ですが、最近では世代を超えた共通のトレンドワードとなっています。

若者たちのあいだでは、映画やドラマを倍速視聴したり、重要なシーンのみを飛ばしたりしながら見るという視聴方法が増えています。「行間を読む」、「間を感じる」という発想は意味がないと感じているのでしょうか。最近流行の曲は、イントロがなくいきなりサビから始まる曲が多いです。昭和の曲は、その作品の世界観を表す印象的なイントロが流れて歌が始まり、Aメロ、Bメロが流れてようやくサビに至るのですが、そんなのはムダということなのでしょうか。さらに、ネット上には多くの「ネタバレサイト」が存在しています。こうしたサイトがもてはやされるのも、「タイパ」を重視する価値観にマッチしたからでしょうか。しかし、昨年、こうしたサイトで人気漫画の内容をセリフの引用と文章による描写のみで紹介した人物が、著作権法違反の罪で起訴され、罰金100万円の有罪判決を受けました。

昨今の世の中は、情報過多であると言われています。スマホひとつあれば、膨大な量の情報を集めることが可能です。すべての情報に均一に時間を割くことは非効率であり、たくさんの情報の中から、どのようにして自分に必要な情報を取捨選択するのか、それが倍速視聴や「ネタバレサイト」の閲覧という方法に表れているのでしょうか。倍速視聴や「ネタバレサイト」閲覧で、よりはやく必要な情報にたどり着きたい、判断したい、という考え方がタイパ思考につながっています。確かに、タイパの最大のメリットは、ムダを省いて自分が自由に使える自分時間を生み出すことができる点でしょう。

しかし、ムダはそんなにムダなのでしょうか？

「学校とは一点から一点への最長距離を教えるところである、と私は言いたい。」これはフランスの哲学者ジャン・ギットンの言葉です。彼は、学校は「最短距離」ではなく「最長距離」を教えるところ、と言っています。タイパの発想からいけば、最短距離の方がいいに決まっています。しかし、二つの点を結ぶ線は、最短距離の直線だけではありません。それこそ数限りない数の線が引けます。時の移り変わりが激しい今だからこそ、時の経過を振り返り、見つめなおしたりすることは、本来とても大切なことだと思います。時にはあえて回り道をしたり、立ち止まってみたり、一見ムダと思われることも経験してみたり、そのなかから学ぶこと、感じ取ることは決してムダではないと思います。みなさんは、どう思いますか？

先日、高校入学者選抜の合格発表があり、4月には新入生が入学してきます。4月から2年生はいよいよ3年生です。最高学年として本校を引っ張っていくとともに、自分の進路目標を実現するために最大限の努力をしてください。1年生は2年生となり部活動、生徒会活動等で中心的な役割を果たす学年になります。それぞれの場面での活躍を期待します。明日から春休みに入ります。それぞれ新年度に向けてしっかり準備をして、4月8日の始業式で元気な姿を見せてください。